
『JSCE2015(土木学会5 力年計画)』について
-あらゆる境界をひらき、市民生活の質の向上を目指す-

中村光
企画委員会 幹事長
名古屋大学大学院 教授

□JSCE20XXとその経緯

□JSCE2015の概要

□JSCE2015重点課題(5年間の目標)

□3つの使命と具備すべき9つの機能

JSCE20XXとその経緯

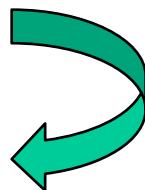
土木学会の目的を達成するために、学会が5年ごとに策定している活動目標と行動計画(アクションプラン)
(土木学会は、**土木工学の進歩**および**土木事業の発達**ならびに**土木技術者の資質の向上**を図り、もって**学術文化の進展**と**社会の発展**に寄与することを目的としている(定款第3条)。)

□JSCE2000(1998.5～)

□JSCE2005(2003.5～)

□JSCE2010(2008.5～)

□JSCE2015(2015～)

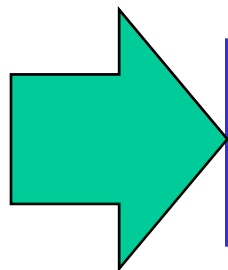


100周年に併せ、中間年から開始年に

JSCE20XXとその経緯

JSCE2000(1998.5～)

- 21世紀に向けて社会のあらゆる分野においてパラダイムの転換が求められていた時期
- 1998年版の「**土木学会の改革策**」として取りまとめられた
- 工学系の学会が有すべき機能と役割を明示し、それらを十分に果たし得る体制の確立を目指した
- 学会改革のための**課題**と各部門の具体的な**取組みを提示し**、各部門の活動の指針とした。



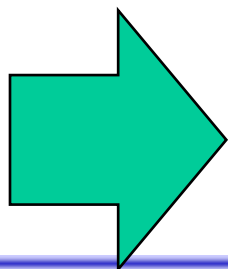
これ以降、土木学会の活動目標と行動計画をJSCE20XXシリーズとして定期的に策定

JSCE20XXとその経緯

JSCE2005(2003.5～)

問題解決能力を持った学会への転換を目指した

- (1) 社会とのコミュニケーション機能および土木技術・社会資本のあり方に関する回答機能の確立
- (2) 会員および学会内部の部門間のコミュニケーション機能の強化
- (3) 学会内各部門の具体的な目標設定とマネジメントサイクルの導入による効率的で効果的な学会運営

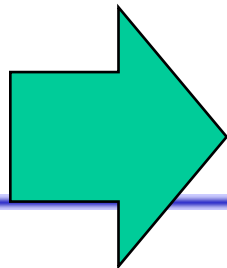


- 会員・社会の双方向性コミュニケーションのためのWEBサイトを開設・運用
- 教育企画部門と教育委員企画委員会を設置
- PDCAシステムの運用

JSCE20XXとその経緯

JSCE2010(2008.5～)

- 「社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力」を表題
- 土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能を明確にした
- 4つのJSCE2010重点目標を設定
 - (1) 地球温暖化対策等分野横断的、総合的課題解決への積極的取り組み
 - (2) 公正な立場からの専門的知見の提供
 - (3) 技術者支援
 - (4) 学会運営の適正化・効率化と分かりやすさの向上

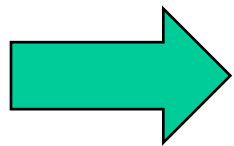


- 活動度評価を実施し、次年度予算配分に反映するしくみの構築
- 国際化の推進のために国際センターの発足

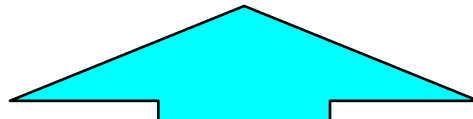
JSCE2015の概要

基本方針

- ①土木学会が2011年に公益社団法人となったこと
- ②2014年に100周年。日本におけるインフラの役割は、これまでの100年から変化していくこと
- ③東日本大震災などの災害やインフラの機能劣化などの問題に対しレジリエントでサステナブルな社会の構築が求められていること



直近に解決すべき問題や将来にわたって継続的に検討すべき問題のとりまとめ



□総合学問としての土木
□顧客の定義の転換(公益社団法人)

会員 → 市民

JSCE2015の概要

顧客の再定義

「顧客」 → 「市民(国の境界に無関係であり地球という共同体の構成員)」

「技術サービス(システム品質)」
「社会サービス(利用品質)」

土木学会

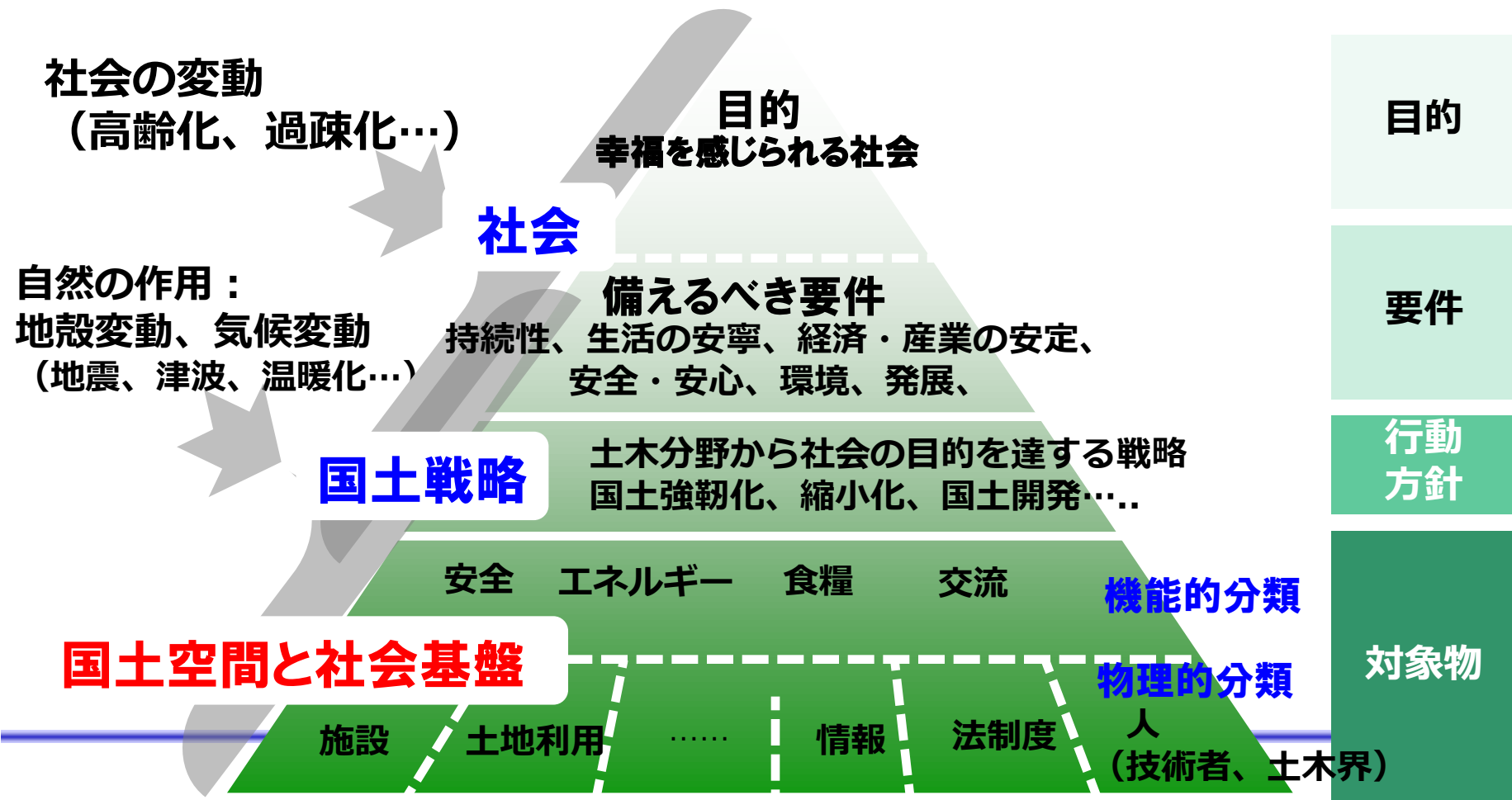
市民に提供する技術サービスと社会サービスの開発の場
学会員の市民に対するサービス提供力の向上のための場

「会員」 → 土木技術のインタープリターに

JSCE2015の概要

土木のフレーム

経済的な充足感だけでない幸福を感じられるような社会を、ハードとソフトのインフラでどのように達成するかを体系化



JSCE2015の概要

目次

はじめに

1. JSCE2015策定方針と策定プロセス
2. 社会と自然環境およびその中にある土木と土木学会の推移
3. 土木学会の顧客の定義の再定義
4. 中期的重点目標
5. JSCE2015重点課題
6. 土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能
7. JSCE2015達成のための活動評価

参考資料:

JSCE2010各部門自己評価結果

JSCE2015アクションプラン

JSCE2015の概要

構成

土木学会の3つの使命と具備すべき9つの機能(6章)

- ① 学術・技術の進歩への貢献
- ② 国内・国際社会に対する責任・活動
- ③ 技術者資質と会員満足度の向上

継続的に行う基本的な活動内容

- ・先端的学術の調査研究の推進
- ・社会安全活動
- ・国際活動
- ・論文集・学会誌の発行
- ・技術者教育支援
- ・市民交流活動
- ・広報及び啓発活動
- ・専門的知見の提供

中期・短期的に重点的に行う活動内容

20～30年の
中期重点目標(4章)

5年間の重点課題
(5章)

JSCE2015の概要

3つの使命と具備すべき9つの機能

学会の使命	学会が具備すべき機能
① 学術・技術の進歩への貢献	a) 学術・技術の先端性・ 統合化 b) 学術・技術の事業への展開性 c) 技術蓄積・移転性・ 流通 (技術基準の国際化)
② 国内・国際社会に対する責任・活動	d) 公正な立場からの専門的知見の提供・技術支援等の社会貢献 e) 国際調和 と貢献 f) 情報収集・分析・発信機能
③ 技術者資質と 会員満足度 の向上	g) 技術者支援(技術力の向上、倫理観の研鑽等) h) 情報取得機会の拡大 i) 学会運営の適正化・効率化

JSCE2015の概要

中期重点目標

- 安全で安心して生活できる持続性のある国土再構成への提言
 - 世界各国が安定的に発展できる国土形成への提言
 - 公正な立場からの専門的知見の発信
 - 社会インフラ技術者の育成と社会的認知の啓発
-

JSCE2015の重点課題

重点課題・・・今すること、中期目標のために今からすること

1. 震災からの復興と防災・減災のための基盤構築
2. 福島第一原子力発電所事故の対策のための土木技術の集約
3. インフラの機能維持・改善・新機能付加と次世代負担の低減・分担システムの構築
4. 地球規模の課題への対応
5. 大規模イベントとインフラ・空間整備への緊急対応
6. 次世代技術者の育成と活用
7. 国際的技術価値移転の推進
8. 価値ある情報発信と情報収集機能の構築と運用
9. 他機関・他分野との連携
- 10. 学会内活動の有機的結合とその評価

JSCE2015の重点課題

1. 震災からの復興と防災・減災のための基盤構築

東日本大震災のような広域災害とともに、局所的な大雨や土砂災害など近年多くの人命を損なう災害が多発している。大規模自然災害に対してレジリエント(強靱)でサステイナブル(持続性)な社会を実現するために、国民の安全を守り安心して生活ができる基盤を創出する取組みを下記の項目などに取り組む。

- 災害に強いしなやかな国土計画・地域計画の策定支援
 - 防災・減災のためのマネジメント
 - 防災・減災のための技術開発
 - 火山災害などのような経験が少ないあるいは未経験な大規模災害への対応
-

JSCE2015の重点課題

2. 福島第一原子力発電所事故の対策のための土木技術の集約

現在進められつつある対策を補完する技術に対する取組みと、廃炉に至るまでの今後数十年にわたる中長期的視点に立った対策のために開始すべき取組みを下記の項目などに取り組む。

- 汚染水問題の対応
 - 汚染物質の処理技術開発
 - 廃炉のための技術開発
 - 福島地域の復興計画と支援
-

JSCE2015の重点課題

3. インフラの機能維持・改善・新機能付加と次世代負担の低減・分担システムの構築

- インフラの維持管理マネジメント
- インフラの長寿命化技術開発
- インフラの維持管理のための技術継承や人材育成・人材活用
- インフラの維持管理のための技術的・組織的な地方自治体支援体制の確立

4. 地球規模の課題への対応

- 地球温暖化対策
- 越境汚染対策

5. 大規模イベントとインフラ・空間整備への緊急対応

- 成熟社会における大規模イベントでのインフラ整備のあり方
 - イベント後においても災害、事故、犯罪などから安全・安心で、活気のある、誰もが豊かな生活を送れるユニバーサル成熟都市等のコンセプトを検討し、発信
 - 現状の土地利用に鑑みたコンパクトシティに向けた都市再構築
-

JSCE2015の重点課題

6. 次世代技術者の育成と活用

インフラの役割は経済の発展段階や固有の歴史的背景からなる文化の組み合わせで様々である。市民を顧客とした場合、ステークホルダーは従来よりも広がった範囲で認識する必要があることから、土木界における人材とその働き方の多様性を支えるダイバーシティの推進は必須である。従来の境界をひろげる次世代技術者の育成や活用のための取組みを下記の項目などに取り組む。

- 課題解決型人材, フロンティア開拓型人材, 価値創造型人材等の育成と活用
 - 社会サービス提供のための基幹人材の育成
 - 多様な人材の多様な働き方を支えるダイバーシティ推進
 - 若い世代が希望を持てるような教育の推進
-

JSCE2015の重点課題

7. 国際的技術価値移転の推進

- アジアやアフリカなどの発展途上国へのインフラ整備に対する国際協力のあり方の検討
- 地域性を考慮した技術基準のすりあわせ協力
- 海外顧客ニーズの把握と関連技術(既存技術の組み合わせによる価値の創造)の整備
- 日本の土木技術(者)の価値を踏まえて、尊敬され真に競争力が得られる仕組みと伝承方法の創造

8. 価値ある情報発信と情報収集機能の構築と運用

- 情報の収集→分析→戦略→発信システムを基本とした広報機能を持った組織の設置と運用を行う。
 - 海外情報の収集と国内情報の海外への発信。
 - 価値ある情報を幅広い層へ発信するために、マスコミとの協力関係を深める。
 - 市民の社会インフラに対する知識や意識向上のために、調査研究部門他においても、市民参加型の講習会や地域活動などを実施する。
-

JSCE2015の重点課題

9. 他機関・他分野との連携

- 工学連携, 工学理学連携, 社会サービスを提供する組織(事業体:GO,PO, NPO)との連携強化。
- 他の工学との連携により総合的な視点での情報発信ができるようにするとともに, 専門家だけの視点ではなく市民の目線で情報発信はできるような民間機関との連携を進める。
- 経済学, 社会学, 法学, 経営学などの他分野およびその分野に係わる諸問題との連携を進める。
- 海外の学協会との連携強化。

10. 学会内活動の有機的結合とその評価

- 自己評価結果の有効活用により学会内活動の見える化をはかるとともに, 技術シーズの整理・蓄積を行う。
 - 研究委員会の統合化や分野横断的活動を積極的に推進する。
 - 本部と支部の関係, 支部の役割を明確にする。
 - 市民と協働した支部活動を実践する。
 - 市民に対して行う活動に対する評価方法の設定と評価結果の反映方法を検討・決定し, 実行する。
-

3つの使命と具備すべき9つの機能

学会の使命	学会が具備すべき機能
① 学術・技術の進歩への貢献	<p>a) 学術・技術の先端性・統合化</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 技術基準のグローバルスタンダード化◆ 社会の構造変化に対応した学術領域の再構築による総合化(旧:再編) <p>b) 学術・技術の事業への展開性</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 技術評価制度の活用(旧:確立) <p>c) 技術蓄積・移転性・流通(技術基準の国際化)</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 土木デジタルミュージアムの構築◆ 東日本大震災アーカイブサイトの充実と活用

3つの使命と具備すべき9つの機能

学会の使命	学会が具備すべき機能
<p>② 国内・国際社会に対する責任・活動</p>	<p>d) 公正な立場からの専門的知見の提供・技術支援等の社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 社会資本整備に関する政策提言◆ 業務委託の実施を通じた社会貢献◆ 多様な人材の活躍推進◆ 美しい国づくり、災害に強い街づくり等への助言・支援 <p>e) 国際調和と貢献</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 国内外活動のシームレス化の推進 <p>f) 情報収集・分析・発信機能</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 広報センター機能をもった組織の整備◆ 市民交流活動を通じた一般社会ニーズの収集・分析◆ 学会活動成果の一般社会向け発信◆ 教育現場への広報活動強化

3つの使命と具備すべき9つの機能

学会の使命	学会が具備すべき機能
<p>③ 技術者資質と会員満足度の向上</p>	<p>g) 技術者支援(技術力の向上、倫理観の研鑽等)</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 技術力の向上、倫理観の研鑽等◆ 資格制度の活用促進(新規)◆ 技術者活用支援サービスの推進(新規) <p>h) 情報取得機会の拡大</p> <ul style="list-style-type: none">◆ シビルネット活動を含む極め細やかな支部活動の推進 <p>i) 学会運営の適正化・効率化</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 会員データベース管理システムの活用◆ 会員特典の周知と会員が活動する場の提供◆ 学会情報の公開(見える化)

あらゆる境界をひらき、市民生活の質の向上を目指す

- 顧客を会員から、市民に(意識をひらく)
- 従来の土木工学を広げた、総合工学に(学問分野をひらく)
- 学会内の技術分野や学会活動の統合に(委員会をひらく)
- 会員は専門知識を業務で使うだけでなく、土木技術のインタープリターに(技術者の役割をひらく)
- 多様な人材の多様な働き方を支えるダイバーシティに(人材をひらく)
- 多様な文化を理解しつつ、世界各国の安定的発展に(文化や地理的境界をひらく)
- 現時点だけでなく、過去と未来に(時間境界をひらく)
-